

# 明治期の旧制中学における運動会の研究 (3)

—愛知県第一中学校の事例から・その1—

秦 真人

愛知学泉短期大学

## A study of Athletic meets in old system Junior High School

### during the Meiji era (3)

—the Athletic meets of Aichi 1<sup>st</sup> Junior High School—

Mahito Hata

キーワード：運動会 Athletic meets、旧制中学校 old system Junior High School、明治時代 Meiji era

#### 1. はじめに

今日、国民体育大会を筆頭に日本で開催されている数々の総合スポーツ大会は、近代学校教育の中で実施されていた運動会がその歴史的基盤となっているといっても過言ではない。

わが国初の運動会は、1874(明治7)年3月に海軍兵学寮でイギリス士官の指導のもとにおこなわれた「競闘遊戯会」がその端緒であると言われ、その後1878(明治11)年5月に札幌農学校(現:北海道大学)で「力芸」として、さらに1883(明治16)年に東京大学でおこなわれた「運動会」へと続く。そして、わが国の教育現場における「運動会が全国的に普及するのは、1884(明治17)年以降のことであり、体操伝習所の卒業生によって中学校、師範学校、そして小学校へと下降・伝播していった」<sup>1)</sup>。

愛知県下において、運動会に関する記録として最初のもは、1886(明治19)年5月19日付けの『絵入扶桑新報』の記事であろうとされている。その記事では明治19年5月17日に行われた葉栗郡前飛保村(現:江南市宮田町)にある三つの小学校の連合運動会の様子を伝えている。

続けて翌日の同紙の記事には、中島郡通信として、明治19年5月16日に行われた中島郡(現:稲沢市祖父江町付近)の18小学校の連合体操運動会ならびに旗取運動会の様子を伝えている。

本研究では、このような愛知県で行われた運動会の初期の実態を究明するため、明治期の旧制中学の活動に焦点を絞り、明治期に実施された運動会の模様を残存する史料の検討からその一端を明らかにしていこうとするものである。

筆者はこれまでに、愛知県第三中学校(現、愛知県立津島高校)、明倫中学校(現、愛知県立明和高校)の事例を見てきたが、今回は現在の愛知県立旭丘高等学校の前進、愛知県第一中学校(以下「愛知一中」)の事例を、校友会雑誌『学林』の分析から進めていく。なお明倫中学との関係と紙面の都合上、まずは明治26年から明治37年の状況に絞って見ていくことにする。

#### 2. 愛知一中における校友会活動

##### (1) 校友会活動のはじまり

愛知一中は1877(明治10)年に愛知県中学校として設立し、愛知一中と呼ばれるようになるのは1896(明治29)年に愛知県第一尋常中学校と改称された頃からであろう。そのため愛知一中は県下のみならず、全国的にも早くから校友会(愛知一中では「学友会」と呼称)活動が行われた中学の一つであり、従って愛知県の中でも早くから運動会が定着していく土壌があったと考えられる。『学友会沿革史総説』によると「明治二十六年三月、本校学友会創設せらる。本会の創設以前に於ても、今日の本会事業の萌芽と

しも認む可きものは、これなきに非ざりき。或は、校内運動会の開かれしことあり、或は、式日に際して運動競技の行はれしことあり、或は、月費を徴して講談会を催ししことあり、此の如く、古くからの萌芽めくものはありきと雖も、真に組織だてる校友会として設置せられしは、明治二十六年三月よりにして、本会規則の始て制定せらしは、実に其翌月の事なりとす<sup>2)</sup>と校友会の開始を記している。

本基本史料である愛知一中の校友会雑誌の第1号が明治26年6月に発行されたこともあり、それ以前の未組織的な運動会についての記録を見ることができないが、当時の教員であった須永詮太郎氏の回想によると「我が校友会運動部の創立たるや、実に古しと雖も、運動競技の隆運に向ひしは、明治二十四五年の頃なり。明治二十六年三月初めて、校内に競技会を開き、主に撃剣柔術相撲蹴鞠等の技を競ひたりき<sup>3)</sup>とある。その目的として「体育の必要は、今更事新しく云ふまでもなけれど、本校生徒由来滔々弁を錬り、孜々学を磨き、会を開きて講談と称す、而して未だ嘗て体育の要務たる事を知らず、文弱の弊膏肓に入り、雄壯の元気と、活潑の精神とに欠乏せり、身体にして厩弱怯羸ならんには、たとひ其精神は宇宙を呑むとも、其の気宇は天地を蓋ふともいかでかく大事をなすを得ん、近時体育の必要は頻りに世人の喋々する処なれども、さて言ふは易く、行ふは難きは世の通弊なり、本部は之れが実を挙げんと目的、即ち本校生徒の体格を強固にし活潑の気風を養成するを目的として創立したるものなり<sup>4)</sup>と校友会運動部の設立目的について記している。従って、校友会設立と同時期に運動系の活動も活発になり組織化されていったと見ることができ。

そして、「嗚呼実に我が競技会は斯の如き大抱負大希望の下に築かれたり…而して『健全なる精神は健全なる身体に宿る』の金言は実に我が競技部の主意たるなり。己にして雑誌部創立の挙あるや、従来は競技部と改称し、講談部及雑誌部と鼎立して校友会の一部となす<sup>5)</sup>。また競技部は「撃剣、柔道、弓術、フートボール、ベースボール、相撲等の諸技にわかれ毎日午後より随意練習するを得しめ殊に撃剣柔

道の二技は毎週二日ツ、該道の達人を聘し各自之れが教練をうけしむ加之毎歳春秋二期に於て大会を挙行し優等者に賞品を授与しますます体育の奨励に務めつつあり既に本年の如きも去月三日愛知郡広路村に於て春期大会を挙行し十数番の遊戯競争ありて非常の盛会なりき<sup>6)</sup>とあるように、この頃には春と秋の二回校外の場所において競技部を中心とした大会を開いていたことが記されている。しかしながら「斯の如くにして我競技部は、専ら勇壯活潑の気象を涵養せんことに務め、或は八事山嶺に、或は矢田の河畔に大会を開き、技を闘し以て其の発達進歩を促せしと雖も、其の競技場の遠きに過ぎ不便少からざりけん、參觀者極めて少数時には殆んど皆無の有様なりき。随つて優勝劣敗に依る名誉不名誉の学生の胸裡に印象すること少なく、競争の念を起すことも随つて薄く、勢勇進奮起の人も多からざりき<sup>7)</sup>とも記されている。つまり、それまでは実施会場の遠さの問題によって生徒たちのモチベーションが今ひとつ高まらなかった様子がここからうかがわれる。

## (2) 校友会規則

ちなみに、校友会活動については、以下のごとく規則の下に展開することとなる。

「愛知県尋常中学校校友会規則

第一條 本会ハ愛知県尋常中学校生徒ノ徳性ヲ涵養シ智識ヲ琢磨シ身体ヲ強壯ニスルコトヲ目的トス

第二條 本校職員及生徒ハ必ス本会々員タルノ義務アルモノトス

第三條 会員ヲ分チテ名譽、特別、通常ノ三種トス

学識名望アル者ヲ推シテ名譽会員トス

本校職員及卒業生若クハ本校ニ縁故アルモノニシテ本会ヲ賛成スル者ヲ特別会員トス

本校生徒ヲ通常会員トス

第四條 本会ノ事業ヲ分チテ講談、競技、雑誌ノ三部トシ左ノ役員ヲ置ク

会 長 一名

学校長ヲ以テ之ニ充テ三部ノ事務ヲ總監ス

幹事長 三名

各部ニ各一名トス特別会員ヨリ推撰シ

会長ノ指揮ニ依リテ幹事ヲ監督ス

但シ時宜ニヨリテ副幹事長ヲ置クコトアルベシ

主 計 一名

特別会員ヨリ推撰シ三部ノ会計ヲ担当ス

幹 事 若干名

各部ニ各幹事ヲ置ク通常会員ヨリ選挙

シ各部ノ事務ヲ弁理ス

役員ノ任期ハ会長ヲ除クノ外總テ一ヶ年トス

各部ノ細則ハ各部ノ規則ニ就キテ之ヲ觀ルベシ

第五條 通常会員ハ毎月（八月ヲ除ク）十五日前ニ会費トシテ金四銭納メ特別会員ハ各員応分ノ会費ヲ納ムベシ總テ会費ハ数月分取纏メ前納スルモ妨ナシ

第六條 生徒ノ新ニ入学シタル者ハ入会費金トシテ金五銭ヲ納ムベシ<sup>8)</sup>

この後、多少の修正が加えられながら、明治32年に日比野寛校長を迎えることとなる。それ以降の野球を中心とした校友会活動の全国的な発展は、これまで別の機会に記してきたので、ここでは省略する。

### 3. 愛知一中における校内運動会

#### (1) 校内運動会の始まり

前述の須永氏の回想によると「本会茲に於て大いに見る処あり、遂に二十六年十一月五日（日曜日）をトして秋季陸上大運動会を本校内運動場に於て開会することに決し、盛んに文武の高官紳士を招待して、以て我校の活気を発揚し、会員の元気を鼓舞せんとせり<sup>9)</sup>」ということ、ついに校内運動場にて大々的に運動会を実施するようになることを記している。

この時の運動会の様子を当時の『学林』編輯員が詳細に記録しているので、それによると「本校が、其以前より熱心に体育奨励の道を講じつゝ、毎歳春秋二期に於て、大運動会を挙行し来りたりといへる事實は、校外多数の人士は之を知らざりしなり。然るに本年は、本校創立以来、始めて之を校内に於て挙行し、案内状を發して、普ねく市内の貴顕知名の士を招きたる事なれば、来館者も多人数にて、定めて盛会なるべしとは、一同予想する処なりしが、斯くまでもとは思ひかけざりき<sup>10)</sup>」と記されているほど

盛会であったようだ。ちなみに、当日の来賓及び陪観者は「非常に多人数にして、徳川侯爵、大迫少将、内田憲兵隊長を初め（中略）県立学校長及職員、新聞記者、各小学校長、市内の有力家等より生徒の父兄保証人等を合算すれば、三百余名の多きに達し、これに各県立学校生徒及本校生徒を加ふれば、無慮七百有余名にして、実に本校創立以来未曾有の大会なりしなり、空前の盛会なりしなり、然り実に空前の盛会なりしなり<sup>11)</sup>」と報告されている。この時、来賓諸氏は徳川侯爵の一金7円をはじめ、多くの金品が寄付されたことも記されている。

実施された競技は以下の如くである。

「競技種類及順序

- 1) 蛙飛競走（大）
- 2) 二人三脚競走（小）
- 3) 一人一脚競走（大）
- 4) 二百メートル競走（小）
- 5) 芋拾競走（大）
- 6) 障害物競走（小）
- 7) 盲人競走（大）
- 8) 蛙飛競走（小）

休 憩

- 9) 二百メートル競走（大）
- 10) 芋拾競走（小）
- 11) 二人三脚競走（大）
- 12) 一人一脚競走（小）
- 13) 半英里競走（大）
- 14) 盲人競走（小）
- 15) 鞠奪遊戯
- 16) 四百メートル競走（小）
- 17) 障害物競走（大）
- 18) 炮烙訓練
- 19) 柔術
- 20) 擊劍
- 21) ベースボール
- 22) 器械体操

（大）（小）とは競技者の身長及体重等によりて、大人小人の二部に分ちたるものなり（中略）時すでに四時、日暮に近きしかば、いよいよ当日最終の競技として、最も興味深きベースボールの選手競技は始まり。選手はもとより揃ひもそろった上手なれば、其手並の見事なること、取り立て言はんはなかなかにて、ただ感服…驚

くに堪へたり…といふの外なし」<sup>12)</sup>という情況であった。

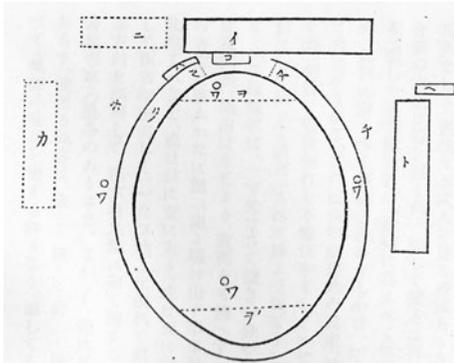


図1. 配置図

イ) 来賓席、ロ) 受賞者席、ハ) 勝敗記録係席、ニ) 競技者溜所、ホ) 本校生徒席、ヘ) 受付席、ト) 陪観者席、チ) 諸学校生徒席、リ) 競走場、ヌ) 決勝線、ル) 発足線、ヲ) 決勝線、ヲ') 出發線、(ヌルとヲヲ'とは競技の種類によって異なる)ワ) ベースボールの時に於るベースの位置、カ) 機械体操場

この時は種目数も少なく、試行錯誤の上での運動会実施であったことがうかがわれる。特に校友会競技部の競技会から発展してきたので撃剣、柔術、ベースボール、器械体操などの種目もこの運動会の中に配置されており、現代の感覚から見ると、それらの種目がエキピション的な位置づけで実施しているようにうかがえるがそうではなく、上述したようにベースボールなどはメイン種目であったように記されている。「斯の如くにして我が校内大運動会の形式成り、以後年々歳々の大運動会は勿論多少の変遷はあれど、大凡此の形式によりて挙行するに至れり。而して斯の如き大運動会は毎年秋期に一回之を行ひ、春期は郊外に出でて所謂小運動会の如きものを挙行するを慣例となすに至れり」<sup>13)</sup>とあるように、これ以後、ほぼ同様の形式で春に小運動会、秋に大運動会が催されるようになった。何れにしても記録に残されたものの中で、この1893(明治26)年11月5日に、愛知一中の校庭で初めて行われた運動会が、愛知県下の旧制中学で開催された組織的な運動会の端緒であったと考えられる。

## (2) その後、明治34年までの変遷

愛知一中の記録では、明倫中学のような詳細な運動会記録が毎年「学林」の中には記されていない。そのため後年(明治43年)にまとめられた運動会記録を中心に、その時々の特徴的なものを引用しながら見ていくことにする。

### ① 明治27年度

・春季運動会 5月17日

当日は「愛知郡横江山に於て発火練習を挙行し、暫時休息後競技に着手せり。競技の種類は、

- 1) 短距離競走
- 2) 二人三脚
- 3) 一人一脚
- 4) 人馬競走
- 5) 盲人競走
- 6) 相撲
- 7) フートボール
- 8) 長距離競走」<sup>14)</sup>と記されている。

春は小運動会をというように、極めて小規模なものであったことがうかがわれる。なお秋期運動会は日清戦争のため中止となった。

### ② 明治28年度

前年の秋の大運動会と同様、この年の春秋両運動会は前年の日清戦争の影響のため、挙行されなかった。しかしながら、修学旅行と兎狩行軍などは盛んに行われたという記録が残されている。

### ③ 明治29年度

・春季運動会 5月15日

「矢田河原に催せり、矢田に達し庄内川を隔てて硝烟天を蔽ひ、砲声地を動かすの大活劇後、七百の健児細雨を犯し長母寺の沙上に蟠集して、よく其の芸を致し、其の技を尽せり。運動の種類例の如し。

激烈なる発火演習によりて肢体綿の如くなるに、尚且敢て此の競技を演ず、当時学生の意気盛んなりしを見るべし。然れども其の競技の種類動作に至りては尚幼稚の憾なき能はず」<sup>15)</sup>と記されているように、この年もまだ日清戦争の余韻が残されたまま挙行されたことがうかがえる。種目は例の如しとあるので、おそらくは明治二十七年の春期運動会と同様の競技が行われたと思われるが、種類・動作はまだ幼稚であるとされている。

・秋季校内大運動会 11月3日

実質的には第二回の陸上大運動会は、「天長の佳節をトして行われたり、此の運動会は、第一回到比し盛大数倍にして、全校七百の健児、血湧き肉躍り、諸種の競技は愉快に活発に行われたり。殊に各年級の趣向によりて作り物をなすあり。抱腹絶倒にたえざる滑稽技をなすあり。競技の種類は第一回と略同一なれど、ロンテニス、提灯競争、スプーンレース等新に加はる。尚注目すべきチャンピオンレースは、実に此の会を以て嚆矢となすの一事なり。之と同時に我校に始めて優勝旗出来たり、当時之をチャンピオンフラッグと称せり（中略）堅二尺余横三尺余、紫色にして中央に隸書を以て捷の一字を縫はれ、左右二疋の金龍之を囲み、上方に金色の蜻蛉あり、意匠嶄新精巧美麗金色燦爛たりき。斯くて此の神聖なるチャンピオンフラッグは場の一方に樹てられ、七百健児の視線は皆悉く此の一点に注射せられたり。（中略）当日来賓競争演せられたり、本校に於て来賓競争の行はれたる之を以て嚆矢となす。之れには本校卒業生、又当時の武揚校（明倫中学の前身）等の生徒もあり参加せりと云ふ。又此日市内紳士の来臨あり、実に本校空前の盛会なりきと云ふ」<sup>15)</sup>と記されているがごとく、優勝旗が渡されるようになったことと来賓競走などいくつかの種目がこの年から取り入れられたことがうかがえる。

④ 明治30年度

・春季大運動会 5月14日

「小幡ヶ原に於て施行せり。七百の健児、日頃鍛ひし腕なみを現さずこと、奮励大に勉め勇壮なる会なりき。競技総て九種、幅飛、片足競走など新しき競技も行はる」<sup>16)</sup>とある。

・秋季大運動会 11月14日

「午前滋賀中学と野球の競技ありて大捷を得、午後競技にかかる一人一脚、短(長)距離競走、二人三脚、芋拾ひ競走、選手競走、来賓競走、障害物競走、擬盲馬競走、来観者飛入競走あり」<sup>17)</sup>と午前は野球の対外試合があり、その後運動会を挙行したことが記されている。この時期から選手競走が一番の見物になったとも記されている。

⑤ 明治31年度

・春季大運動会 5月7日

「小幡ヶ原に於て行ふ。回数二十七、別に分列式あり種類十五、宝拾競走、四足競走、高飛競走、三人四脚、人馬競走、竹登競走等珍しき競技ありき」<sup>18)</sup>

・秋季陸上大運動会 11月24日

「旧本校内西運動場にて開会す。回数三十、種類十七、武装、職員、数学、四足等の競技を新に加ふ、三年級は余興として赤穂義士の復讐に出掛かけんとするに擬し、二年級は軽気球を揚ぐ。此の会以降会場は西運動場と定められ、毎年春秋二期共に校内にて盛大なる会を催すに至れり」<sup>19)</sup>と記されているように明治32年以降は毎年春秋ともに校内運動場で催されるようになった。そして、新たな余興が行われたことも記されている。

⑥ 明治32年度

・春季校内大運動会 5月8日

「回数三十二、種類十八、二分間レース、クラスリレー、八百ヤード競走等加はる」<sup>20)</sup>、そしてこの年の7月21日に日比野校長が来任した。

・秋季陸上大運動会 11月23日

「生徒七百、回数三十三、(中略)此会日比野校長赴任以来第一回の運動会なりしを以て、未曾有の盛会なりき、殊に特筆大書すべきは創立以来未だ曾てあらざりし、各高等小学校選手の競走なり、先生赴任勿々県下各小学校の体育を奨励せんが為め、一種の表勝旗を発案新調せられ、県下四十有余の高等小学校選手各三名宛其数大凡百数十名を会せしめ、最後の優勝者に之を授け、毎歳春秋斯くの如くにして、今日に至れり、(中略)又中等以上諸学校選手を招待して、競走をなさしむるに至りしも、此時を以て濫觸となす、実に運動会に一段の華を添へたりと云ふべし」<sup>21)</sup>とあるように、この運動会より日比野校長の発案で近隣諸学校の選手を集い、優秀者には表彰旗を授与して愛知県下の体育奨励を進めることとなる。

⑦ 明治33年度

・春季校内大運動会 5月14日

「回数三十五、四百ヤード、八百ヤード、二百ヤード競走、クラスリレー、幅飛、蓮脚、障害物競走、武装、器械体操、来賓及職員競走等にして、運動の種類漸く虚を去り、実に就くが如し(中略)此時代より、諸学校互いに選手を出

し、我校も遠征するに至れり、且従来の如き、滑稽技全く廃せられて、ランニング大いに発達し、回数も漸く増加し、男子風の競技盛んにして、終に今日の一種独特の一中運動会風を生み出すに至れり」<sup>22)</sup>とある。ここにして、競走を中心とした愛知一中独自の運動会様式なるものが確立したことがうかがわれる。

・ 秋季陸上大運動会 11月4日

「小雨を犯して挙行す。回数四十六、野毬、柔術、剣術等加はりて盛会なりき(中略)此日時事新聞社より金メダル、中京新報社より表捷旗を寄贈せられたり」<sup>23)</sup>とあるように、この運動会から新聞社から金メダルや表彰旗の寄付があったことが記されている。

⑧ 明治34年度

・ 春季校内大運動会 5月5日

「我が健児八百を数へらるは、既に此の時に始まる、此の日微雨ありしも、競技は極めて盛大なりき」<sup>24)</sup>

・ 秋季陸上大運動会 11月3日

「二十余種の運動競技は三十六回に分たれて、何れも盛に演ぜられたり」<sup>25)</sup>とこの年についてはごく簡単にしか記されていない。

ここまでに見てきた、明治27年から34年までの8年間で、種目の入れ替わりはは見られるものの、春は8種類8回から、最大18種類35回まで増え、秋は14種類22回から24種36回まで増えて、その広がりの様子が読み取れる。また、日比野校長来任を機に一中独自の様式の確立と、単に一中のみならず愛知県下全体の体育奨励に向けてこの運動会が、その役割の一端を担っていくことがうかがわれた。

(4) 転換期(明治35年から明治37年)の変遷

① 明治35年度

此の年は春季運動会は開催されなかった。その理由としては「遠からず運動会催さるべしと皆足を爪をだて首を鶴にして待ちけるに幸か不幸か本校に短艇競争あり、野球部懸賞仕合あり、為めに五月も早や尽きんとす」<sup>26)</sup>とその年は、たまたま漕艇と野球の試合が5月の春季運動会時期と重なったため、日程が組めなかった事情がうかがわれる。春期運動会が開催されないことによる、生徒たちの落胆を払拭するかのよう

に、この年は寄宿舎生春季運動会として学校全体の行事としてではなく、それに代わる行事が行われたという記録が残されている。

・ 寄宿舎生春季運動会 6月1日

このことに関しては、細かい記録が残されているが、種目の概略のみ記しておく。

- 1) 二百ヤード(中)
- 2) 四百ヤード(小)
- 3) 二百ヤード(大)
- 4) フートボール(其の一)
- 5) 二人三脚(大)
- 6) 宝拾競争(小)
- 7) 四百ヤード(中)
- 8) 鉄棒
- 9) 木馬
- 10) 武装競走(其の一)
- 11) 武装競走(其の二)
- 12) ロンテニス源平試合(其の一)
- 13) ロンテニス源平試合(其の二)
- 14) 野試合
- 15) 二百ヤード(小)
- 16) 八百ヤード
- 17) 宝拾(大)
- 18) 二人三脚(小)
- 19) 担架競走
- 20) 四百ヤード(大)
- 21) フートボール(其の二)
- 22) 障害物(小)
- 23) 障害物(大)
- 24) クラスリレー
- 25) 角力
- 26) 撃剣

この終了に際して「かくて競技を斯に結び、当日勝利者への賞品授与あり終りて万歳を称へて散会しぬ、時に落暉西に沈んで残光僅かに西天をこがすのみ、百数十の健児嬉々然として豊頬紅潮を漲らし、一日の疲労を忘れたるものの如し」<sup>27)</sup>と記している。この記事を見る限り、定期的な学校行事である春期運動会が行われなかったが、それに代わって行われた寄宿舎の運動会が伸び伸びと充実していた様子がうかがわれる。

・ 秋季陸上大運動会 11月3日

「競技の回数通じて四十二、其の種類を挙げれ

ば、二百、四百、八百ヤード、二人三脚、連脚、クラス、障害物、武装競走等あり、尚千六百ヤードの未曾有の長距離走も加はれり、其他撃剣、柔術、槍術、綱引、幅飛、器械体操など従来のもも有り、毎会ながら最も異彩を放つは、本校諸学校及び高等小学校選手の競走なり（中略）我校八百の健児が、日日運動に熱中して錬磨に錬磨を重ねたる健脚は、ここに此の秋より他校運動会の招待に応じて、県下の諸校を縦横に風靡せしめたるより、愈々我が運動部の隆盛を表示するに至れり」<sup>28)</sup>とある。ここ数年、近隣の小学校、中学校などの選手を受け入れて開催してきたが、この年からは他校からも招待を受けて、県下の諸学校の運動会に一中の招待選手が参加するようになったことは、愛知県下で益々スポーツが盛んになっていく様子がうかがわれる記事である。ちなみに、他校への参加は医学専門 (10/16)、明倫中学校 (11/9)、第一師範学校 (11/16) の各運動会に数名の選手が出場し、何れも一位、二位を独占してきたと記されている。

## ② 明治 36 年度

・春季小運動会 5月5日

「単に校内のみの運動会として、来賓等を招待する事なかりしも、競技は例によりて活潑盛大に演ぜられき、之れより屢々小運動会の挙あるに至る」<sup>29)</sup>と伝えている。

・秋季陸上大運動会 11月8日

「風に雨に磨き上げたる健児が待ちに待ちたる大運動会は、実に未曾有の盛会なりき。競技には六百、提燈、千鳥等加はりて回数五十有九尚三回の番外あり」<sup>30)</sup>と記事としては短く寂しいもので詳細は一層わからないものの、新たな競技と番組回数の増加を読み取ることができる。

## ③ 明治 37 年度

この年の2月から開戦される日露戦争の影響で「国事多忙の際、我会長は人材養成の必要特に切なるを深く感ぜられたる故にや、我校運動競技の奨励は益々盛となり、而も彼の運動の主旨たる勇壮活潑の氣象を養成する上に実益少なき競技は努めて之を廃し、専ら精神身体の鍛錬に重きを置きて以て運動の真目的を全うせん事を期したり。故に其の種類如きもよく此の目的に叶へるものを選び、競技の回数を増加して

一般の利益を計れり」<sup>31)</sup>として、戦争の影響は逆に身体教練の元となる運動会の益々の発展へと結びついていたように記されている。そして、この年は実に4回の運動会が挙行されている。

・春季小運動会 3月6日

「前年の小運動会に於けるが如く、来賓併に父兄保証人等を招待せざりしも、一般観覧人は極めて多かりしかば、競技者の元気勇壯の極みなりき」<sup>32)</sup>と招待者がいない小運動会にも関わらず、多数の来観者が訪れていたことを記している。

・春季大運動会 4月24日

「戦時の大運動会は空前の発展をなして、八百健児の鉄腕石脚は遺憾なくここに表せられき。時は四月二十四日、緑門万国国旗紅燈等にて目覚ましく飾られたる本校運動場に於て、勇まし合図の銃声快き奏楽とともに、一百有余の大競走は午前七時より午後四時に亘りて行はれたり」<sup>33)</sup>と春季にも関わらず、100回以上の競技番組が行われていたようである。

・一中明倫連合運動会 5月6日

明治 36 年から日比野校長が明倫中の校長を兼務することになったこともあり、二校の連合運動会が実現した。その様子を「五月六日第三師団招魂祭の当日、我第一中学は明倫校と此に一大連合運動会を金城練兵場に於て挙行せり。両校の健児互いに負けじ劣らじの意気猛く、今日の晴れの場合にお互に勝敗を争ひしが回漸く重りて三十三と数へらるるに至り、突然意外の災厄生ぜり」<sup>34)</sup>とある。記事にあるように、一中の一生徒が障害物競走の後、心臓マヒを起こして死亡するという事故が起き、中断して散会した。それにも関わらず、その三日後に彼の「ために追悼会を開き、終りて尚追悼運動会を校内に挙行し、以て君の霊を慰めたり」<sup>35)</sup>と記されている。現代の感覚であると、このような痛ましい事故の後には行事を控えたり、或は運動会そのものを当分の間中止するという風潮が一般的であるが、この当時はむしろ追悼行事として運動会を行っていたところに時代の違いが読み取れる。また、恒例になりつつあった他校の運動会への参加は、この年の春にも行われている。明倫 (5/8)、県立工業、浜松中学 (5/16) に参加している。

・秋季陸上大運動会 10月23日

「回数九十余種類は格別大差なし(中略)余興として自転車曲乗り、小学校にては熱田、諸学校にては二中(短)、明倫(長)の二校当日の名をなせり」<sup>36)</sup>とその様子をごく短く伝えている。また他校への参加は農林(10/11)、医学専門(10/20)、三中(10/30)、明倫(11/20)に参加して戦績を残している。

以上、この3年間を日露戦争と日比野校長の影響が強く現れる時期としての転換期と位置づけて見てきた。特徴としては、戦時における体育奨励ということもあり、番組回数が著しく増加することと、対外的な交流が増していくことが挙げられる。

#### 4. おわりに

以上のように、明治26年から明治37年にかけての愛知県第一中学校において開催された運動会の事例を見てきた。種目については数、内容とも年々と変化していく時期であったことがこの史料からも十分うかがわれた。また、運動会開催の背景や愛知一中独自の特徴を見ることもできた。例えば、運動に関わる校内行事でいかに多くの運動の機会を生徒に与えていったかということ。校内にとどまらず、県下の諸学校の生徒を招待したり、諸学校へ馳せ参じて行き近隣の諸学校間の交流も深めていった様子が顕著にうかがわれた。このことは、明倫中学の場合と同様に日比野校長の影響が多であったことは疑う余地がない。

全国的に見て、運動会は「文部省、地方の府県、そして郡区などにいたるまで、国家機構の頂点から末端まであげてその開催が奨励されていた(中略)この大々的な奨励策を見ると、明治政府が体操の普及によって国民の身体の改良を図ることにどれほど強い関心と意志とを持っていたかがうかがわれる。そして運動会という集団による身体と身体技法の展覧の場は、身体動作を束縛する和服から、動きやすい洋服への服装改革を推進し、また新しい学校教育というものを視覚化することによって修学意欲を呼び起こそうとする装置でもあった」<sup>37)</sup>このように当初の運動会は明らかに学校体育奨励の施策として始まったと木村が述べているように運動会が

果たしてきた歴史的意義は大きいものがあったということが、今回の愛知一中の史料からもうかがえる。

今後は、今回取り上げることのできなかった明治38年以降の運動会の発展の状況と、まだ見えていない愛知県下の別の旧制中学の事例を取上げて、検討を進めていきたいと考える。

#### 5. 引用文献

- 1) 入江克己(1999)近代天皇制と明治神宮競技大会『運動会と日本近代』青弓社, 161
- 2) 石田元季:学友会各部沿革史総説(1910)『学林六十九号』愛知県第一中学校, 一誠社, 1
- 3) 須永詮太郎:学友会各部沿革史○陸上運動、同上、
- 4) 同上
- 5) 同上
- 6) 愛知県尋常中学校学友会:報告○学友会競技(1896)『学友会雑誌 第一号』、一誠社、33-34
- 7) 前掲、『学林 第六十九号』、1-2
- 8) 前掲、『学友会雑誌 第一号』、37
- 9) 前掲、『学林 第六十九号』、2
- 10) 編輯員:雑報○秋期陸上大運動会(1910)『学林 第五号』、31
- 11) 同上、36
- 12) 同上、32
- 13) 前掲、『学林 第六十九号』、4
- 14) 同上、4-5
- 15) 同上
- 15) 同上、7-8
- 16) 同上、7
- 17) 同上、7-8
- 18) 同上、8
- 19) 同上、8-9
- 20) 同上、9
- 21) 同上、9-10
- 22) 同上、10
- 23) 同上
- 24) 同上
- 25) 同上、11
- 26) ディー・エー・グッド雑報 寄宿舎報○寄宿舎生春期運動会(明治35年6月26日)『学林 第五十四号』、172
- 27) 同上、179
- 28) 前掲、『学林 第六十九号』、4
- 29) 同上、11-12
- 30) 同上、12
- 31) 同上
- 32) 同上

- 33) 同上
- 34) 同上、13
- 35) 同上
- 36) 同上
- 37) 木村吉次「明治政府の運動会政策」(1999)、前掲『運動会と日本近代』、152

## 6. 参考文献

40周年記念実行委員会(1989)『愛知陸上競技協会尾張支部四十周年記念誌』愛知陸上競技協会尾張支部, 5-6

絵入扶桑新聞, 1886.5.19-20, 朝刊